

平成25年度 わくわく市民懇談会

1 日 時 平成26年2月19日(水) 午後1時30分～午後3時

2 場 所 信州中野商工会議所 第一会議室

3 出席者 信州中野商工会議所女性会 会員14名
市長、随員職員2人

4

- ◆冒頭のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ◆日本・世界・中野市の人口推移について・・・・・・・・・・2
- ◆人口減少化の対応について・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ◆ダイバーシティ・女性の社会進出について・・・・・・・・・・3
- ◆人口動態について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ◆北陸新幹線開業への対応について・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ◆観光ビジョンについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ◆質疑応答・要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

「市長講話」

冒頭のあいさつ（わくわく市民懇談会について）

- 今日は、私が何を感じ、考えているのかをお話をしながら、また、ご意見をいただいて、中野市をこれからより元気に行きたいと考えていますのでよろしくお願いします。

日本・世界・中野市の人口推移について

- 日本の人口は、鎌倉幕府のころ700万、江戸中期に3,000万、日露戦争5,000万、それからずっと増えまして2006年には1億2000万でピークに達し、以降減り続けています。なにかと余る時代になってきたということで、施設等のあり方についても考えていかなければいけない状況です。世界の人口については、オイルショック以降に50億人を超え、現在は70億人以上となっています。
- 日本は、人口が減っていくという推計であり、生産年齢人口についても減り、高齢者率は逆に増えていくこととなります。中野市も同様に減っていきます。人口の減と生産年齢人口の減はほぼ同数となっており、働き手が減るということを意味しています。

人口減少下の対応について

- 人が減るということは、消費が減ることになります。人が減ってくると、人を集めなければいけないので、外国からの人口流入が増えるかもしれません。また、観光で人に来てもらい、消費をしてもらうということもしないと購買力を維持できなくなります。
- 昼と夜の人口を比べた数字「昼夜間人口比率」について、中野市はほぼ100%で、市外に働きに出ている人と、市外から働きに来ている方の数が同じくらいということです。横浜市のような東京のベッドタウンでは数字が小さくなります。
- 市の魅力を高めて人を呼び込む戦略が必要となります。中野市は祭が多いというものがあります。中野市に行ったら楽しそうだなというものを外に向かって発信していかなければいけません。
- 国際姉妹都市が中野市にはありません。木島平村にあっては都市ではなく、ある国と提携している。中野市も考えていかなければいけないと思っています。

ダイバーシティ・女性の社会進出について

- 女性の登用について、高島屋では女性の常務が、横浜市では女性の市長が誕生しています。いろんな意味で女性の感覚で社会情勢の変化に対応していく。また、労働力として、企画や商品開発の面でも参加していくことが必要です。財布を握っている女性がどんなものをほしいと思っているのかということ、女性が考えていかないと成り立たなくなっていく。伸びている企業のクリエイターはほとんどが女性です。

- 市の政策においても、女性をもっと中心になって新しい企画をしていくべきだと思っていますし、その提案を取り入れていきたいと考えています。現在市の管理職の中の女性の割合は 20% ちょうどです。なんで少ないかということ調べましたところ、経験をさせていないことが原因のようです。庶務担当を課が変わっても担当している。多様な仕事を経験してもらい、その中で得意分野を見つけて伸ばしていくことでこの数字は上がっていくと思います。女性が活躍しているところには、女性が集まってくる。男尊女卑意識の強い地域には女性は集まってこない。みなさんと女性が活躍する中野市を作っていきたい。

人口動態について

- 日本は世界でトップの高齢化社会であります。これは決してマイナス面ばかりではなく、医療、介護分野が最も発達している国であるともいえます。このようなシステム自体を輸出していくということもできる。この状況で中野市も、「菌食健康食品」などの健康分野での発信をしていくことも有効であると思います。

北陸新幹線開業への対応について

- 新幹線が開業すると、過去の統計から必ずストロー効果が発生する。何もしなかった通過駅の市町村は衰退してしまう。食材を売っているだけではいけない。観光地としての中野市があるんだよということを発信したい。現在はインターネットで世界とつながっている。その中で中野市を発信することもできる。特徴的なことを発信できれば世界の中で中野市が注目されることもありえる。
- 長野はオリンピック開催で世界に通じる名前であるが、信越 9 市町村も連携して世界に発信していかなければいけない。

観光ビジョンについて

- 中野市では様々なイベントを開催している。今までは市内でやっていたらよかったが、これからは外に発信して外から人を呼び込まなければいけない。誰にとってどのようなメリットがあるのか、これからは市外の人にアピールしていかなければいけない。来年度、市長直轄のプロジェクトチームを作って観光面の施策を考えていきたいと考えている。滞在型の観光を地としての中野市を考えていきたい。来て見て帰るではなく、そこで過ごすそのような観光地を作っていきたい。食・花・歴史文化・自然を充実させ発信して魅力ある観光地としていきたい。中野市の天領文化を発信したい。
- 市の中心市街地、「陣屋」を中心に 2・3 時間滞在してもらおうような拠点を作りたい。南は「山田家」、北は「果樹」、豊田は「ふるさと」、東山は「文化」領域としてそれぞれ活かしていきたい。観光バスを呼び込むためのルートを作っていきたい。新幹線の影響をプラスにしていかなければいけない。人の流れを中野市で止めるような施策を行いたい。

質疑応答・要望

○ 土人形を観光にも活かしてほしい。また、土人形資料館の周辺整備も行ってほしい。

回答 観光資源として有効であると考えている。4月からのプロジェクトのなかで検討していきたい。

○ 陣屋前の柳の下の清掃を月1回、地元で行っている。市でも行ってほしい。

回答 検討したい。(後日確認：道路河川課では、区長からの依頼により剪定等を行っている)

○ 陣屋付近にお土産を買う場所がない。

回答 拠点としてはお土産を買う場所が必要なものであると考えている。4月からのプロジェクトの中で検討していきたい。